

1. 実況上の着目点

① オホーツク海の低気圧から前線が、東日本・西日本太平洋側を通り、東シナ海にのびる。2日21時には前線上の九州南部付近に低気圧が発生し北東に進む。低気圧や前線に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となっている。四国の南や東日本太平洋側では1時間30mm程度の激しい雨を解析。四国の南では雷を検知。

② 強い台風第18号は、台湾の南西海上にあって、ほとんど停滞している。南西諸島ではうねりを伴った波が高く、しけとなっている所がある。

また、①の東シナ海に停滞する前線に向かって台風周辺からの下層暖湿気が流入し、南西諸島付近では1時間80mm以上の猛烈な雨を解析し、雷を多数検知(メソサイクロンも検出)。奄美地方と沖縄地方では、竜巻注意情報を発表。

③ 台風第17号は、2日21時に温帯低気圧化。温帯低気圧からのうねりにより、北日本太平洋側では波が高くなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

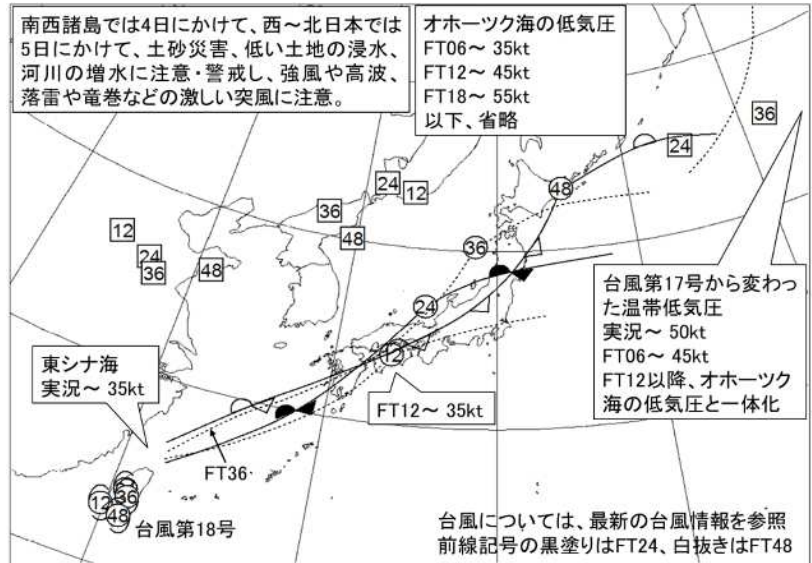
① 1項①の前線上の低気圧は、黄海付近から東進する500hPa -21℃の寒気を持つ5700~5820mのトラフの影響により、発達しながら3日夜にかけて四国付近から日本海に進み、4日は北日本を通過する。5日は西~北日本に前線が停滞するが次第に不明瞭となる。低気圧や前線に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となるため、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨の降る所がある。また、低気圧や前線と周辺の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。西~北日本では5日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、強風や高波、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。

② 1項②の台風は、3日は台湾付近をゆっくり北上して、4日は南下しながら衰弱する。南西諸島では4日にかけて、台風周辺からの下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、強風や高波、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考とするが、2項①の日本海の低気圧予想や2項②の台風の進路は、不確実性が大きいため留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ①雨量(06時からの24時間): 東海・近畿・四国180、九州南部・沖縄120、関東甲信・中国・奄美100mm。②波浪(明日まで): 沖縄4、その他広く3m。③高潮(明日まで): 大潮の時期。西~東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第18号」「雷と突風及び降ひょう」の情報を5時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図